九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 **No.350**

2020（令和2）年10月 8日（木）発行

タイム誌「世界に影響の100人」に大坂なおみさんと伊藤詩織さん

○9月22日、アメリカ『タイム』誌は恒例の「世界で最も影響力のある100人」に日本から全米オープンで黒人差別を抗議した**大坂なおみさん**（2年連続）と**伊藤詩織さん**を選んだ。○伊藤さんは2017年山口敬之元TBS記者から性的暴力を受け、実名で告発したジャーナリスト。山口記者は闇の中で不起訴となるが、伊藤さんは民事訴訟で昨年12月東京地裁で勝訴し、勇敢な告発として高く評価されています。○2011年、**前南相馬市長桜井勝延氏**も大震災直後の市の窮状を全国に訴えて選出されています。

若者こそ"希望・勇気・未来からの使者"

○どうしても私たち中高年者は、何かと若者に小言を言ったり、すぐにひとこと忠告したくなるものですが、実は反対にいろいろと若者から学ぶことも多いようです。

香港民主化運動の周庭さん

香港の周庭（しゅうてい、アグネス・チョウ）氏は、今注目の民主活動家。96年12月3日香港生まれの23歳。中学4年（日本の高校1年）の2012年から民主化運動に参加。14年香港反政府デモ（「雨傘運動」）など活動のリーダーとして数度の逮捕も。日本のポップやアニメ、カラオケを愛好し、独学で日本語をマスター。また今年8月10日国家安全維持法違反で逮捕された時、日本の欅坂46の『不協和音』の歌詞が頭に浮かんだと、翌日保釈されて話していました。

♪『不協和音』（作詞秋元康）の歌詞は、僕はYesと言わない / 首を縦に振らない / まわりの誰もが頷いたとしても / 僕はYesと言わない / 絶対沈黙しない / 最後の最後まで抵抗し続ける / / 僕は嫌だ / 不協和音を / 僕は恐れたりしない （略）

米国の若い世代ほど、戦争を憎み「原爆投下は正当化できない」

米国の歴史学者ガー・アルペロビッツ氏は最近、次のように分析しています。

「かつて原爆は戦争終結に必要だったというのが伝統的だったが、最近では若い世代ほど日本への原爆投下を正当化できないと考える人が多くなっている。また、日米の若い世代対象のＮＨＫアンケートでは、米国人の約7割が『核兵器は必要ない』と答え、若い世代は戦争への嫌悪感を強めている」 **（8月21日『朝日新聞』より）**

核兵器廃絶と世界平和をめざす今年２３代目「高校生平和大使」

核兵器の廃絶と世界の平和をめざして1万人の署名を集め、スイスの国連本部に届ける「高校生平和大使」の活動が今展開中です。平和大使は1998年から始まり今年で23代目で、16都道府県から28人（福島県から2名）が選出。コロナ禍で9月の結団式もスイス派遣も中止となりましたが、でも今後の国内での活動が期待されます。

「平和な世の中にするために活動を」

福島県の平和大使は、福島東高2年生小野葵さんと安積高2年の**吉井佳音さん<写真>**。佳音さんのお母さんは南相馬市出身の**吉井美貴さん**ですが、「私も高校時代はその日が楽しければいいと気楽な子供でした。でも自分も親になって戦争と平和について考えるようになり、子供達の幼少時にも少しずつ関心を持つような機会を与えてきました」と話し、また佳音さんも「小学生の頃からの夢がかなった。戦争のない平和な世の中にするため、多くの人が平和を考えるよう活動していきたい」と意欲的でうれしいことです。

（7月30日『福島民友』参照）

東日本大震災、原発事故、コロナ…

「さすけねぇ～」とは「差し支えない・気にしなくてよい・大丈夫」という意味の、懐かしく温かさを感じる相馬（福島）弁です。

<絵>は、昨年9月20日に逝去された画家朝倉悠三さん（本会会員）の2017年3月12日『福島民報』に掲載の作品で、「震災後、一番勇気づけられた懐かしい言葉」の添え書きがあります。言葉の力を信じて、励まし合いましょう。

会員さんより（会費振替用紙から）

○「いつもありがとうございます。皆様も新型コロナに負けず、ご自愛ください。原町の故郷は離れられず市民のまま避難継続中です」

（川崎市麻生区　鈴木康晋さん）

○「はらまち九条の会と私たちのたかつ九条の会の親交を深めるために、カンパも送ります」

（川崎市高津区下作延　速水勝広さん）

○「ＨＰで会報を拝見しました。状況や環境が変化しても、皆様が信念をお持ちになって長年の活動を続けていらっしゃる姿勢には敬服するばかりです」　**（郡山市　新会員Ｙさん）**

≪事務局より≫

前回8月の会報の郵送とともに、会費の納入をお願いしましたが、早速たくさんの方々からの納入を頂き、ありがとうございます。

改憲も継承する菅首相。油断できませんね。

原発事故の生業訴訟、9月30日二審仙台高裁で「国に責任あり」の当然の嬉しい判決。賠償対象地域も人数も賠償額も倍増。多くの会員さんもこの裁判の原告になっています。

読者からの読書感想

○今年5月の会報No.343に**吉田千亜著『孤墨 双葉郡消防士たちの3.11』岩波書店**を紹介しましたが、その感想が届きました。

★同じ消防士として涙が止まらず★

本を読んで涙を流す、ということは十代や二十代の頃にはあったかも知れませんが、この本は途中から涙が止まりませんでした。

私も相馬の消防士で、3.11の大震災の現場で同じような体験をしていて、本に登場する人達は同期や旧知の方々ばかりです。私があの時感じたり思っていたことを、双葉の消防士たちも同様に思っていたんだなと、自分を投影して記憶がまざまざと蘇りました。

この双葉の消防士125人は、住民の救助や避難誘導だけでなく、特に爆発して危険な福島第一原発の構内で命懸けの給水活動など厳しい活動を強いられました。その過酷さが痛いほど全編から伝わってきます。

著者の吉田さんは若い女性ですが、相双地区の医療体制や消防独特の慣習を細部にわたり本当によく取材され、また消防士の活躍ぶりも克明に描き出していると感心しました。それは取材される方々との信頼関係がしっかり構築されていることを意味しています。

この本は全国の消防や、若い人たちに伝えていきたいと感じています。素晴らしい本を紹介していただき、ありがとうございました。

（南相馬市原町区　匿名　41歳）

朝日座を舞台にテレビドラマ

10月30日、福島中央テレビで放送

南相馬市の映画館「朝日座」を舞台に、福島中央テレビ開局50周年を記念したドラマが、主演はミュージシャン竹原ピストルさん（43）と女優高畑充希さん（28）、監督はタナダユキさん（45）で、10月30日放送の予定。楽しみです。

はらまち九条の会事務局≪南相馬市：TEL0244≫
○会長：平田慶肇 ひらた けいいち TEL24-1211・FAX24-4825
○事務局長：早坂吉彦TEL090-2975-2508 ○番場恵子 TEL22-0715
○事務局次長：山崎健一（福島市）TEL090-7527-5453　Eメール：yamazakiken1@gmail.com
○会計：井上由美 〒975-0031南相馬市原町区錦町1-43井上薬局内　TEL22-7511・FAX26-0892
○石田賢二（郡山市）TEL080-5556-4037　○志賀勝明（相馬市）TEL090-9530-5524
○大浦祥見 TEL24-0704　○若松麟二 TEL23-5732　○田中徳雲（小高区）TEL090-2796-4066